



鹿児島市桜島地域おこし協力隊 令和5年度 報告会資料

さくらじま地域おこし協力隊
2024年3月18日

- **地域のデジタル化を推進**
- **Play!City Daysで交流人口増加**
- **E bikeツアー開発で地域貢献**
- **ウォーキングイベントで伝統文化保存**

地域のデジタル化を推進

桜島地域は少子化とともに高齢化も進んでおり、昨今の急速なデジタル化に伴い、デジタルに不慣れな高齢者等も増えています。そういったデジタルデバイドを少しでも解消するため、スマホ教室を開催するなど、地域の高齢者等へのデジタル支援を進めています。



▲スマホ勉強会実施の様子

(令和4~5年度10月まで)
開催実績**21回**
延べ参加者数**114人**
会員数**10**→**25人**

実績

なぜ「スマホ勉強会」が必要なのか？



国も市町村も進めているデジタル化に”桜島地域”が対応していくため。なんですが、、、
勉強のためにスマホ講座に参加したりしたときに思ったこと・・・

スマホの講習会は聞きたいことが聞けない。聞かされるばかりで内容が進んでしまう。
扱える&理解のスピードは人によって異なるのに進められてしまう。
教えられている内容も画一的なものだが、スマホも人それぞれ違う。



短期的でなく長期的で、
集団ではなく個別に寄り添える、
形で進める必要性を感じました。

地域には高校や大学がなく、若者と地域の関わりしろが少なくなり、地域の人材流動性に欠けていることが地域活性化への課題と捉えています。そのため、鹿児島県の学生と地域を結びつける活動として、桜島でのインターンの受入活動や地域コミュニティイベントへの誘致活動を行なっております。



合計組数**9組**
受入人数**46人**

実績

なぜ交流人口が大切なのか？



島の現状は働く世代・学生が出ていくばかり

地域では人口減少、少子高齢化、そして人材不足が顕著に。

今までの地域活動も地域の同じ人が同じことしなければならない面倒な仕事という悪循環が生まれ地域での共助の感情は薄れるばかり。

地域事業者の人材不足も顕著になり島外から人を呼び込みたいという声も。



地域に必要な人手不足と、地域に関わって何かしたい人たちのニーズのマッチングが必要だと感じました。

地域外の人にとっては、桜島という地域を知ってもらうことが第一歩。そして、地域にとっては、よそ者目線を取入れる機会の創出につながる。

E bikeツアー開発で地域貢献

地域の2次交通の問題や、地域事業者のキャッシュポイントづくりが課題となっている観光産業
また、地域の魅力は地域を回ってこそわかる！と考え、Eバイクで地域を回るツアーを開発中。

通常の自転車とは異なり、電動アシストがついていることで、
起伏の激しい場所にある桜島の魅力にアクセスすることができる！



▲ツアー実施の様子

体験者数 **63名**
(催行回数19回)

開発ツアー数 **7種類**

実績

桜島の観光スタイルにバリエーションを加え、桜島の一周観光に彩りを！
桜島に来て、一周して「景色は良いけど」と物足りなさを感じる人を減らし、ファンづくり！
「ガイド」観光より利用ハードルを下げて、一周して楽しめる価値伝達ツールを作成。



▲桜島の秘話が詰まった絵巻地図

謎解き冊子販売数
(桜島ビジターセンターで2021年2月販売開始)

累計272セット

絵巻の販売数
(桜島ビジターセンターで2023年4月販売開始)

累計78セット

実績

E bikeツアー開発や絵巻地図を開発して地域貢献？

なぜサイクリングで桜島観光なのか？



桜島は見るもの、観光スタイルを変えないと、
桜島を好きになってくれる人がいなくなる

桜島にフェリーで渡ると、2次交通の不便さが際立つ。

桜島の地域事業者にお金が落ちる仕組みがない。そこまでいけない。



地域に来島する人にとっても、
地域で仕事をする人にとっても良い方法で、
桜島で暮らせる**(稼ぐ)仕組み**が作りたかった

桜島は観光の島と言われ、鹿児島市にとっても観光資産だが活かしきれていない、、、という声も。

桜島を深く知る「**体験**」の**恒常的な提供**できる
仕組みが必要だと感じた

ウォーキングイベントで伝統文化保存

地域には隠れた魅力がたくさんあります。今までのデザインスキルなどを活かしながら、桜島の魅力の磨き上げや、発信をしています。そうすることで、多くの方にあらためて桜島を認識してもらったり、文化の継承にも繋げていけると考えます。



▲ウォーキングイベント実施の様子

2021年サクイチナイトウォーク

参加者数**301人**

2022年なぎさ公園ナイトウォーク
(車椅子もOK)

参加者数**84人**

2023年マグマウォーク火山島の岳参り伝説

参加者数**62人**

実績

伝統文化を守るとは？



協力隊という短い任期の中ですることに疑問が、、、

地域の伝統的で魅力的な行事でも、打ち上げ花火で終わったら意味がないのでは、、？

過疎化が進む地域ほど、地域行事で割ける人員も少なく、行事を行うことも困難。

桜島でも多くの人の協力は借りながらも、地域の限りある労力をお借りしていることを考えると、地域の意義もしっかりと考えないと、と思うように。



イベントとして一時的でも復活させることで、ウェブサイトを作ったり、運営の仕組みを共有できるようにしておく。

それが次のバトンを繋ぐと考えてます。

(1年に1回なくても、4年に一回とか、もっと長い期間空いていたとしても、
またやりたい人が出てきた時にできる手法を確立していくことが守ることに繋がると考えています)

**また、伝統があるから守るのではなく、
内在する価値を守ることが大切と考えています。**

地域産業(農業・観光)活性化支援

農業支援として、魅力的な製品の発信方法の磨き上げをすべく、イベント企画や広報支援を行っております。

また、観光支援として、2次交通の問題や地域のキャッシュポイントづくりとして、Eバイクによるガイドツアーを企画開発しております。



交流人口(主に学生)創出支援

地域には高校や大学がなく、若者と地域の関わりしるが少なくなり、地域の人材流動性に欠けていることが地域活性化への課題と捉えています。そのため、鹿児島島の学生と地域を結びつける活動として、桜島でのインターンの受入活動や地域コミュニティイベントへの誘致活動を行っております。



島民のデジタル支援

桜島地域は少子化とともに高齢化も進んでおり、昨今の急速なデジタル化に伴い、デジタルに不慣れた高齢者等も増えています。そういったデジタルデバイドを少しでも解消するため、スマホ教室を開催するなど、地域の高齢者等へのデジタル支援を進めています。



地域の魅力発掘・発信・継承支援

地域には隠れた魅力がたくさんあります。今までのデザインスキルなどを活かしながら、桜島の魅力の磨き上げや、発信をしています。そうすることで、多くの方にあらためて桜島を認識してもらったり、文化の継承にも繋げていけると考えます。



3年間の変化

地域の人に耳を傾けながら、地域としてどうあるべきかを考えた3年間、
地域目線がわからずに、よそ者目線での失敗を経ながら、
地域にとっての意義を考え抜く力と、地域を俯瞰して見れる力が必要性を痛感。
地域が変わるタイミングには、どちらの要素も必要なことだと思います。



よそ者は、地域(人)が持つ経験値(歴史)を理解する必要がある。。。

さいごに、ラジオに出てみませんか？

ラジオに出演いかがでしょうか？ あれを話してほしい！あの人を出演させてほしい！

などあればご連絡くださいませ。

今、FMラジオで「桜島の風」という番組を持たせてもらっています。

最終週の火曜10次30分～11時30分



さいごに、ラジオに出てみませんか？

